

第6学年 道徳学習指導案

日時 平成17年10月13日(木) 5校時
児童 男7名 女10名 計17名
授業者 伊藤 勝久

1, 主題名 先人の努力 (1-(2) 希望、勇気、不撓不屈)

2, 資料名 高田松原(自作)

3, 主題設定の理由

(1) 価値について

本單元における内容項目1-(2)は、「より高い目標を立て、希望と勇気をもってくじけないで努力する。」とある。努力目標を立て、くじけずに希望と勇気をもって取り組み、その理想に向かって着実に前進していこうとする強靱な意志と実行力を育てることが必要であり、その際、希望をもつことの大切さ及び挫折感を克服する人間の強さを指導する内容である。中でも不撓不屈とは、障害や困難にくじけず、最後まで粘り強く着実にやりぬくことである。そのためには、身近な日常生活の中での目標を達成する経験の繰り返しを通して、生きることへの希望や新しいことに積極的に取り組もうとする自信と勇気の育成を重視する。そうしてより高い目標に向かって努力する意欲を引き起こすように指導していきたいと考える。

6年生にもなると学習や生活にある程度見通しが持てるようになってくる。自らの目標をもち、その実現のために努力しようとする意欲は高まっていく。しかし、学期はじめに目標や計画を立てても、ちょっとした困難に出あうとそれを克服できず、挫折して、努力する意欲を失ってしまうことも少なくない。簡単にあきらめてしまうことなく粘り強く努力し続けようとする気持ちをもってほしい。

本時では、自分たちの地域の先人達の努力にふれさせることで、困難なことに出あっても簡単にあきらめたりせず、粘り強く努力し続けることの大切さに気づかせたい。

(2) 児童の実態

学級の子どもたちは、高学年として、「市内の水泳大会」や「陸上大会」、その他の諸行事において、自分の目標を持ち、その実現のために努力しようとしている。今までの経験から、そうした諸行事の取り組みにおいて、さほど努力をしなくても達成できそうな目標を設定したりする児童もいる。また、自らが決めた目標であっても、困難なことに出あうと簡単にあきらめてしまったり、時間とともに努力する意欲を失ってしまったりする児童も少なくない。

そこで、今学期の総合単元的な道徳学習の中で、自らの目標をしっかりと持ち、苦しみを乗り越えた後の達成感や満足感をできるだけ多く経験させたい。そのような経験を繰り返すことによって、より高い目標を持ち、粘り強く努力し続けようとする態度を育てていきたい。

(3) 資料について

2学期の総合的な学習の時間に「わたしたちの今泉」というテーマで地域の歴史や自然などについて学習を進めた。その学習の中で、高田松原が自然にできたものではなく、先人が作り上げたものであることを学習した。そこで、現在では、東北有数の景勝地となった高田松原を築いた先人の努力について学習することで、より本価値を子ども達に感じ取らせることができるのではないかと考えた。本資料は、塩害や砂の影響で全く作物が収穫できなかった不毛の地であった高田松原に主人公となる二人の先人が農民のつらくきびしい生活を何とか改善しようという目標をもち、防風林、防砂林としての松の植林を始めたという物語である。砂浜に松を根付かせることの難しさや厳しさに直面しながらも、何年も努力を重ね、ついには、みごとな松林を完成させ、田畑からの収穫も増え地域の農民た

ちの生活を豊かにした。このような地域の先人の努力にふれさせ、自分も目標実現に向かって努力していこうとする態度を育てていきたいと考えた。

(4) 指導にあたって

① 単元について

本単元「かがやけ！わたし」の「である」の段階では、2学期の学級開きにおいて今学期の諸行事や取り組みについての見通しを持たせ、個人や学級としてのめあてを設定させる。また、道徳の学習で「かたうでの名コーチ」という資料を使い、不撓不屈の価値についての学習を行い、自分や学級の目標に向かって努力し、達成しようとする気持ちを高めさせたい。

「ふかめる」段階では、「市内陸上大会」での自己の目標に向かっての取り組みにおいて、感じたことやできたこと、できなかったことなどについて振り返らせたい。目標を達成した児童の様子や感想などを紹介したり、達成できなかった児童の反省についてみんなで考えさせたりしたい。そして、次の行事である「学年対抗リレー」でもどのように、めあてや目標についてみんなで話し合い、取り組ませたい。本時では、これらの経験を想起させ、目標を達成するまでの努力そして挫折しそうになったときの気持ちを乗り越えて、目標を成し遂げたときの喜びを味わわせることで、最後まであきらめず努力し続けることの大切さを感じ取らせたい。

「ひろげる」段階においては、「気仙小フェスティバル（学習発表会）」や「校内マラソン大会」において、自ら目標に向かって努力を重ね、自らの力で困難を乗り越え目標を達成することができるように支援をし、自己の目標を達成したときの喜びを感じさせたい。そして、今後の生活の中でも自己の目標に向かって努力し続けようとする態度を育てていきたい。

② 本時について

「つかむ」段階においては、松原の風景の写真などを使い、本時の学習についての興味関心を持たせるとともに、「市内陸上大会」での取り組みにおいて目標に向かって努力したことや苦しかったこと、取り組みを終えたときの気持ちを想起させ、本時の学習の価値への方向付けをしたい。

「とらえる」段階では、資料の内容や場面の状況などを捉えやすくするために拡大図や紙板書などを活用し、視覚に訴えることで理解を促したい。

「ふかめる」段階では、登場人物の松坂新右衛門がなぜ、松の植林を行おうとしたのか、困難なことに出会ってもあきらめることなく植林を続けたのかについて考えさせたい。挫折感をもちながらも努力し続け困難を乗り越えていこうとする松坂新右衛門の行動に共感させたい。また、努力の結果、松林が完成し田畑からの収穫が安定することで地域の人々の暮らしが豊かになり、自らの目的を達成した松坂新右衛門の気持ちについても考えさせたい。

「まとめる」では、今までの生活の中で、困難なことに出会っても努力し続け、目標を達成した経験について話し合わせ、目標に向かって努力し続けることの大切さや目標を達成したときの成就感について考えさせたい。

「あたためる」では、挫折感を味わいながらも少しずつ努力を重ね、自分の目標を達成した経験について教師の説話を聞く。また、本時の価値にかかわる詩を紹介し、実践意欲へとつなげていきたい。

4, 総合単元的な道徳学習の構想

単元名 かがやけ！わたし

ねらい より高い目標を持ち、希望と勇気をもってくじけないで努力する。

段階	時期	意識の流れ	学級活動・体験活動	各教科	日常指導・その他
であう	8月 3週	<ul style="list-style-type: none"> 2学期もいろいろなことをがんばりたいな。 2学期は、継続して家庭学習に取り組もう。そして、スーパーメダルを取りたい。 自分もすぐにあきらめたりしないで、もう少しがんばろう。 	学級活動 1学期の自分の生活を振り返り、2学期の目標を持つ。	学級活動 (オリエンテーション) 総合単元的な道徳学習の今学期のテーマや活動について知らせる。 漢字・算数ワールドカップ 自分の目標に向かって家庭学習に取り組むことができるようにする。	日記指導 自分の目標やがんばっていることそのときに感じたことや行動したことを日記に書きとめておく。
	道徳の時間 主題名 障害に打ち勝って 1-(2) 資料名 「かたうでの名コーチ」 (出典：東京書籍) ねらい より高い目標に向かって、障害や困難に打ち勝ち、粘り強くやり通そうとする態度を養う。				
ふかめる	9月 1週	<ul style="list-style-type: none"> 陸上大会を成功させたいな。 練習が辛いな。 自分で決めた目標だから、最後までがんばろう。 	陸上大会 陸上大会に向けて、自分の目標をもち、目標を達成するためにやらなければならないことに計画的に取り組む。	総合的な学習の時間 自分の課題を追究するために粘り強く取り組む。	心のノート P14~17 目標に向かって生きる。
	9月 4週 10月 2週	<ul style="list-style-type: none"> 目標に向かってがんばってきたよかったな。 学年対抗リレーも目標をみんな決めて最後までがんばろう。 結果も大切だけどみんなががんばったことがいい思い出になったな。 こんなに長い間努力し続けた人もいたんだなあ。 自分でやろうと決めたことをすぐにあきらめたりしないでがんばってみよう。 	学年対抗リレー みんなで協力して学級の目標に向かって取り組む。	道徳の時間 主題名 困難に立ち向かう 1-(2) 不撓不屈 資料名 高田松原 (自作) ねらい 困難なこと出会っても人々のために、自分の目的のために努力し続けようとする態度を養う。	
ひろげる	10月 3週	<ul style="list-style-type: none"> 今まで、がんばってきたことを生かして、フェスティバルを成功させよう。 忙しいし、大変だけれどみんなのでいい思い出を作るために最後までがんばろう。 去年よりいい成績になるように、苦しくても一生懸命練習に取り組もう。 	気仙小フェスティバル 学級で決めたためあてに向かって、活動や練習に取り組む。	マラソン大会 自分の目標をもち、達成するために自主的に練習に取り組む	

自分の夢や目標にむかって、失敗や困難に負けずに努力することも

5, 本時の指導

(1) ねらい

自分の目標に向かって、困難なことにくじけず粘り強くやり通そうとする態度を養う。

(2) 展開

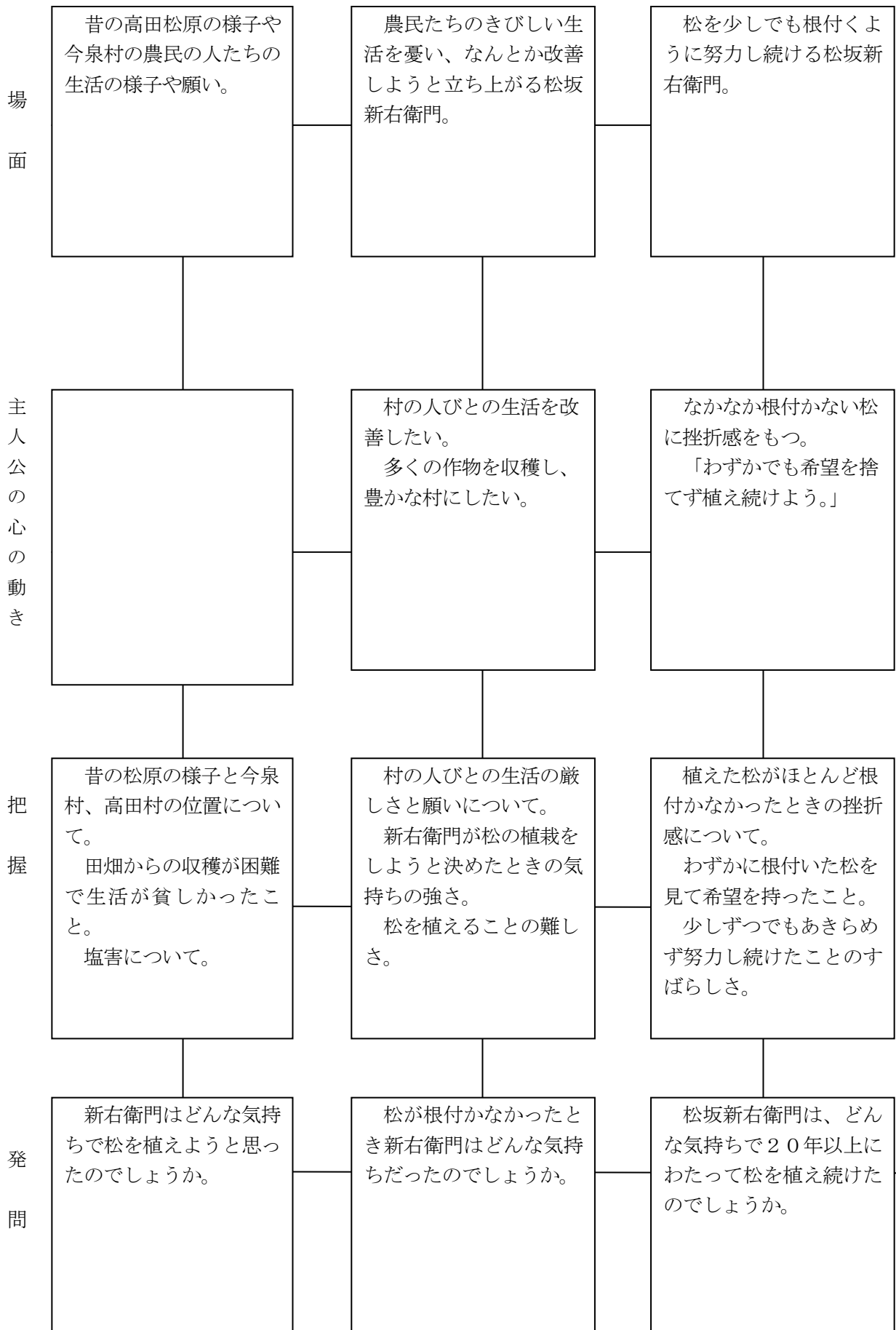
段階	学習活動・教師の働きかけ	予想される児童の反応	支援と指導上の留意点
つかむ 5分	1, 陸上大会での自分の取り組みの様子について振り返る。 ○ 自分の目標を達成するためにがんばったことはどんなことでしたか。	<ul style="list-style-type: none"> 選手になりたかったから自主練習をした。 練習はつらかったけどがんばった。 	<ul style="list-style-type: none"> 陸上大会だけではなく、松原の写真なども紹介し、本時の学習について興味をもたせるようにする。 本時は、自分の目標に向かって努力し続けることについて学習することを知らせる。
とらえる 5分	2, 「高田松原」を読み、資料の状況を捉えさせる。		<ul style="list-style-type: none"> 資料を読む前に松坂新右衛門の気持ちに注意して聞くことを指示する。 挿絵の拡大図を使い資料の内容を捉えやすくする。
ふかめる 20分	3, 新右衛門の気持ちについて話し合う。 ○ 新右衛門はどんな気持ちで松を植えようと思ったのでしょうか。 ○ 松が根付かなかったとき新右衛門はどんな気持ちだったのでしょうか。 ◎ 松坂新右衛門は、どんな気持ちで様々な工夫をしながら松を20年以上にわたって植え続けたのでしょうか。	<ul style="list-style-type: none"> 潮風のせいで、田畑からの収穫がない。 食べるものが無く貧しい生活 死んでしまう人もいた。 人々を救いたい。 大変だろうけどなんとかしたい。 菅野杵之助が松林を作ったのだから自分にもきっとできるだろう。 やっぱり無理だったか。もうやめてしまおう。 いくらやっても無駄なんだ。 村の人たちのためにがんばろう。 少しは根付いたのだから少しずつでもがんばろう。 少しずつでもがんばればいつかは立派な松林になってくれるだろう。 	<ul style="list-style-type: none"> 人々の生活の苦しさや願いをしっかりとらえさせる。 松坂新右衛門が松を植えようと決めたときの気持ちについてとらえさせる。 枯れてしまった松を見たときの挫折感を想像させる。

ま と め る 10 分	4, 自分たちの生活を振り返る。 ○今までに自分の目標に向かって 努力し、目標を達成したり、で きなかつたりした時の気持ちを 考えましょう。 5, 授業の感想を総合単元カード に記入する。	・運動会のムカデリレーで走れな かったときもうやめたくなった。 ・太鼓の練習で笛がふけなくてやり たくなくなった。	・今までの生活の中で目標を達 成したときの気持ちやでき なかったときの挫折感につ いて考えさせる。
あ た た め る 5 分	6, 感想を数人に発表させる。 7, 最後に詩を紹介する。		・自分の目標に向かってくるし くても努力し続けた経験に ついて話す。 ・本時の価値にかかわる詩を紹 介することによって今後の 実践意欲へとつなげていき たい。

6, 板書計画

<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 100px;"> 詩 </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 陸上大会でがんばった ・ 運動会のムカデリレーでがんばった ・ 少しずつでもがんばろう ・ 少しでも根付いたのだから続ければいつかは ・ やっばりだめだったか ・ やっても無駄なのかな ・ もうやめようかな ・ 村の人を救いたい。 ・ 松林を作れば村の人たちの暮らしが楽になるだろう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 100px;"> 挿絵 2 昔の松原の様子 がわかる図 </div> <ul style="list-style-type: none"> ・ まずしい ・ 収穫がなく食べるものもない。 ・ 作物が育たない。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; min-height: 100px;"> 挿絵 1 松原の写真 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; min-height: 40px;"> 陸上大会 の写真 1 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; min-height: 40px;"> 陸上大会 の写真 2 </div> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px; min-height: 100px;"> 高田松原、菅野全之助、松坂新右衛門 </div>
--	--	--	---

7, 資料分析



高田松原く菅野柰之助、松坂新右衛門く

今からおよそ二百五十年前、高田松原に松林はありませんでした。そのため、海からの潮風で、塩水が作物にかかってしまうために枯れてしまったり、強い風で砂浜の砂が飛んできて田畑に積もったりして、高田村（高田町）今泉村（気仙町）は、水田や畑で作物を作ることが難しい土地でした。台風などが多い年には、作物が全く収穫できなかつたこともありました。そんなときには、食べるものが無く飢えで死ぬ人も多く出ました。農民達は、そんなきびしい生活をなんとかしたいと思っていましたが、どうすることもできず困り果てていました。そんなつらくきびしい生活からみんなを救おうと立ち上がったのが、菅野柰之助と松坂新右衛門でした。

柰之助は松原の高田村の分に松を植えました。半分以上がかわれてしまいました。それでも柰之助は、松を植え続け、今の高田松原の基礎を作ったのでした。



高田村は、柰之助のおかげですいぶんと潮風や砂が少なくなり、作物も収穫できるようになってきました。しかし、今泉村の部分は、気仙川の河口になっており、砂の量が多く松を植えることは難しかったため、田畑からの収穫がほとんどない状況でした。今泉村の人々の生活は、いぜんとしてつらくきびしいものでした。どうにか作物が収穫できるようにならないものかと



悩み続ける日々を過ごしていました。困っている村の人々を何とか助けたい、今泉村を豊かな村にしたいという思いで立ち上がったのが松坂新右衛門でした。

新右衛門は、自分のお金で、人を雇い、松の苗木を買い、気仙川の河口の砂地に奎之助が植えた方法で松を植えてみました。しかし、大量の砂の中に海水がしみこんでいたり、夏には、砂が非常に暑くなったり、冬になると砂の表面が凍ったりして松の根を枯らしてしまい、ほとんどの松が枯れてしまいました。村の人々はだれもが、「やっぱりだめだったか。もうどうすることもできない。」とあきらめていました。新右衛門は、わずかに砂浜に根付いた松を見て「少しずつでもいい、松を植え続けなければいつかは、きっとみんなの田畑を守ってくれる林になるだろう。」と思いました。村の誰もがあきらめてしまっても、くる年もくる年も松を植え続けたのです。そして次第に松が生長し二十年もの長い年月をかけて素晴らしい松林になりました。

高田村も今泉村も潮風や砂が少なくなり、田畑で作物が取れるようになり、新しい田畑の開発も進みました。菅野奎之助、松坂新右衛門の二人の長い年月に渡る努力のおかげで、村の人々は、豊かな生活をする事ができるようになったそうです。

それから三百年、菅野奎之助や松坂新右衛門が今の松原の美しさをみたらどんな気持ちになるのでしょうか。

